

かがやき

Hiroshima City Hospital public relations magazine

Kagayaki

編集・発行

広島市立広島市民病院
〒730-8518 広島市中区基町7番33号
TEL.082-221-2291 FAX.082-223-5514

<http://www.city-hosp.naka.hiroshima.jp/>

手術室紹介 手術室が 増えました。

広島市立広島市民病院 西川 公一郎
副院長



手術室担当副院長の西川公一郎です。手術室について話をさせていただきます。高齢化、医療の進歩により、手術が有効であり、必要な方が増加してきています。毎年、手術件数は増加し、平成27年度当院手術室で9,097件の手術を行っています。平成28年度は10,000件近くの見込みです。

しかし、手術を選択し、手術を予約していただいても、実際に手術まで待つ期間があります。診断がついて、手術を待つ期間はとても不安なことでしょう。不安な時期を少しでも短くできるように職員は努力してきましたが、十分ではありませんでした。何とか皆さんの期待に沿えるよう、昨年4月、ハイブリッド手術室設置を含め、手術室を増設しました。そして、昨年5月からハイブリッド手術室が本格稼働しています。大動脈弁狭窄症に対して、切開することなく、カテーテルを用いて治療する方法（TAVI：経カテーテル的大動脈弁置換術）が代表的な例です。

また、手術室の増設にともない、平成28年6月から同時に全身麻酔の手術が12例できるようになりました。従来から1割弱増加する見込みです。今後なるべく早く必要な手術が行われるように、手術室の充実に努めていきます。

手術室の数が増えても、安全な治療を行うためには、いろんな役割を持つ職員のチームとしての働きが重要です。手術室で働く職員とはどのようなものでしょうか。医師や看護師はすぐ思い当たると思いますが、そのほか多くの方が働いています。各職種を紹介します。

1) 医師：実際に手術を行う医師です。手術を一人で行うことは少なく、通常2～3人がかかります。

当院では外科、乳腺外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、小児外科、産

科、婦人科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、眼科、歯科口腔外科等の医師がいます。

2) 麻酔医：術前、術中、術後に麻酔の管理をする医師です。痛みがなく安全に手術を行うために体のコントロールをします。

3) 看護師：清潔な手術着を着用して必要な器具を医師に渡す係や、外回りと言って手術の進行を支える係があり、通常2～3人がかかります。

4) 臨床工学技士：手術室で使用する各種器具や生命維持管理装置の管理運用をします。

5) 放射線技師：骨折の手術等で手術中にX線撮影をするときに呼ばれます。

6) 業務員：手術室内の整理や準備を行います。

7) 事務職員：手術に関する様々な事務作業を行います。

現在手術室に麻酔科医師25名、看護師62名、臨床工学士4名、業務員13名、事務職員4名が配置されています。担当の医師は担当の手術以外は手術室にはいませんが、麻酔科医師、看護師をはじめ100名以上が手術室を主として仕事をしています。医師、看護師以外の多くの職種が、協力して、安全な手術、医療が行われるように努めています。

できれば手術は受けたくはないものですが、非常に有効な治療法でもあります。もし、手術が必要であり、手術室においてになる場合には、安心しておいでください。100名以上の職員が協力して支えています。

New

最新鋭の高精度放射線治療装置を導入

今年度、広島市民病院では、最新鋭の高精度放射線治療装置（TrueBeam STx with Novalis : BrainLAB/Varian社製）を導入しました（2016年秋稼動開始）。

わが国では、放射線治療を受けられるがん患者さんが年々増えています。その背景には、「高精度放射線治療」により飛躍的に放射線治療成績が向上したことが挙げられます。当院でも放射線治療を受けられるがん患者さんは年々増加しています。ここ数年は、日本放射線腫瘍学会が規定する放射線治療装置1台あたりの年間上限患者数400～450人を超える年間約700～750人の患者さんを治療する状況が続いています。



2008年以降、現有の放射線治療装置で、ミリ単位の精度で腫瘍に集中的に高線量を照射する定位放射線治療（ピンポイント照射、SRT）、腫瘍周囲の正常臓器への影響を最小限に抑えつつ、腫瘍に高線量を照射する強度変調放射線治療（IMRT）、ミリ単位で腫瘍位置を補正しながら照射を行う画像誘導放射線治療（IGRT）などの高精度放射線治療を提供してきました。しかし、放射線治療装置1台と少ないマンパワーでは、全ての患者さんに対して高精度放射線治療を提供することは困難で、多くのがん患者さんに近隣の放射線治療施設で治療を受けていただくようお願いせざるを得ない状況が続いていました。

このたび、最新鋭の放射線治療装置の導入により、当院で治療を受けられる全てのがん患者さんに高精度放射線治療を提供できる設備が整いました。設備の充実のみならず、放射線治療部スタッフ（診療放射線技師、医学物理士、看護師）も増員し、安全かつ高品質の放射線治療を提供できる人員体制も整えました。新規導入したTrueBeam STxでは、現有の放射線治療装置で対応できなかった以下の高精度放射線治療が実施可能となります。

- ① 複雑な形状の小さな頭蓋内腫瘍・頭頸部腫瘍のIMRTおよび強度変調回転放射線治療（VMAT）
- ② サブミリ（1mm以下）の照射位置誤差を短時間で検出し、腫瘍位置を補正するIGRT
- ③ 高線量率による短時間照射（これまでの1/6の時間で照射）
- ④ 10個までの頭蓋内腫瘍を短時間で同時に照射

今後も、最新の高精度放射線治療のみならず、従来通りの放射線治療においても高品質を維持するため、放射線腫瘍医、診療放射線技師、看護師、事務職員からなる“放射線治療チーム”が一致団結して頑張っています。



(脳) 神経内科って？

平成27年4月より、神経内科は、脳神経内科に名称が変わりました。でも、神経内科にしても脳神経内科にしてもあまり馴染みがないのではないのでしょうか。実際、(脳) 神経内科はまだ比較的新しい診療科で、わが国で認められるようになってからまだ50年くらいしか経っていません。基本的には、「脳・脊髄・末梢神経・筋肉の器質的な病気を内科的に治療する科」ということになります。器質的という言葉がわかりにくいかもしれませんが、CT、MRIなどの画像や、もし肉眼や顕微鏡でこれらの臓器（脳・脊髄・末梢神経・筋肉）をみた場合に異常を認める病気とも言えます。

精神科、心療内科、脳神経外科などとの違いがよくわからないとも言われます。

1) **精神科との違いは？** 精神科、精神神経科、神経科、この3つは同じ意味で使われており、主に心の病を扱う科です。いわゆる精神病（統合失調症、うつ病など）、神経症（いわゆるノイローゼ）、不眠症等です。これらの病気は、CTやMRIの検査では異常はみられません。認知症やてんかんは、精神科、(脳) 神経内科どちらの科でも扱います。

2) **心療内科との違いは？** 心療内科は、病気の原因に何らかの心理・社会的要因（ストレス）が深く関わっている内科的な病気（気管支喘息、高血圧症、胃潰瘍など）を治療します。精神科との違いは、精神的な問題が不安やイライラなど心の面に強く現れれば、精神科の病気となりますが、動悸がしたり、お腹の具合が悪くなったり、血圧があがったり、など身体の方（内科的病気）に強くであれば心療内科となります。ただ実際には精神科とあまり区別なく使われています。

3) **脳神経外科との違いは？** 脳神経外科（脳外科）は、基本的には脳の手術を行う病気を対象としています。すなわち脳腫瘍、脳卒中、脳外傷などです。ただ、わが国では脳神経外科は100年くらいの古い歴史がありますが、(脳) 神経内科はまだ50年の歴史しかありません。したがって、(脳) 神経内科医は全国でもまだ少なく、(脳) 神経内科で扱う病気の多くもこれまで脳神経外科の先生が診てこられました。今でも、頭痛、脳梗塞などは、脳神経外科、(脳) 神経内科ともに扱っています。

(脳) 神経内科で扱う病気は？

(脳) 神経内科で扱う病気には次のようなものがあります。

- 脳卒中（脳出血、脳梗塞）
- 頭痛（片頭痛、緊張型頭痛など）
- 認知症、アルツハイマー病
- てんかん
- パーキンソン病、パーキンソン症候群
- 髄膜炎、脳炎
- ギラン・バレー症候群、多発ニューロパチー
- 脊髄小脳変性症
- 多発性硬化症
- 筋萎縮性側索硬化症
- 重症筋無力症
- 筋炎、筋ジストロフィー など

この他にも多数ありますが、後半にあげた病気はあまり馴染みがないと思います。

いった意味からも (脳) 神経内科はこれからの診療科と言えます。

どんな症状のときに受診すればいいの？

おそらく病名でもまだイメージがわからないと思いますので、(脳) 神経内科を受診される方の症状を次にあげてみます。

- 頭痛
 - 手足に力が入らない
 - 手足がふるえる、勝手に動く
 - 歩きづらい
 - 意識がなくなって倒れてしまう
 - めまい
 - ろれつが回らない
 - もの忘れ
 - ものが二重にみえる
 - しびれ
 - 動作が遅い
- 等々きわめて多彩です。

(脳) 神経内科で扱う病気は長い間治療法がなかった病気も沢山ありますが、最近の医学の進歩により新しい治療法がどんどん見つかっています。また、超高齢社会を迎え、脳卒中、認知症、パーキンソン病の患者さんが増え続けています。そう



看護部抱負

私事で恐縮ですが、広島市民病院に就職して、今年で39年目になります。「やめたい!!」と思うこともなく今日まで働き続けてきました。働き続けられたのは「看護が好き」は当然ですが、人と人の絆に支えられ、そして多くの患者さんとの出会いから様々な事を学ばせていただき、看護師として成長することができたからだと思います。

「看護師として成長すること」＝「人材育成」は看護部がもっとも力を注いでいることです。看護部の理念である「やさしさと思いやり」のある看護を行うためには、幅広い知識と確かな技術を備え、謙虚で誠実な姿勢で患者さんに向き合える豊かな人間性が必要です。日々の一つ一つの積み重ねが看護の質向上につながり、患者さんに「市民病院にきて良かった」と思っただけの看護部でありたいと思います。

看護部理念

私たちは、やさしさと思いやりを大切にしたい、安心・安全な看護を行います。

基本方針

- 1 患者さんとともに、安心できる安全な療養環境を整えます。
- 2 地域の医療機関と連携し、チーム医療の推進に努めます。
- 3 急性期病院として看護の専門性を高めるとともに、豊かな人間性を兼ね備えた人材育成を行います。
- 4 看護する喜びと誇りを持って働ける職場環境づくりを行います。
- 5 ムリ・ムダ・ムラをなくし、健全な病院経営に貢献します。



副院長(事) 看護部長
堀田悦子

DMAT活動について



DMAT

「ディーマツト」と読みます。災害派遣医療チームの事です。
このたびの熊本地震で活動をさせていただきました。

4月14日と16日の2度にわたって、震度7の地震が発生する未曾有の事態が起きました。テレビやメディアでは被害が一番深刻な地域の倒壊家屋の様子や避難所様子をたくさん映し出していました。その被災地中心部の災害拠点病院である熊本赤十字病院に500を超えるDMATチームが赴きました。一方でテレビにはほとんど映ることのなかった地域もたくさんありました。たしかに見た目の被害は少ないかもしれませんが、被災地には変わりありません。広島県と四国4県、そして北海道の計50を超えるDMATチームがその映ることのなかった熊本県北の広域を担当しました。

DMATはそもそも災害発生から数日から1週間活動し、医療が必要な方々に対して診察や処置を行い、場合によっては県外への搬送を行います。たくさんの患者が病院を訪れた中心部とは異なり、県北は患者がいるのかどうかさえわからない状況でした。「みんな無事で患者はいない」のではなく「助けを求めている患者に誰も気づいていないだけ」なのかもしれない、そんな可能性も秘めていました。県北に集まったチームで会議を行い、県北の全ての避難所、病院、診療所に対して電話で状況確認をし、電話が繋がらない所はひとつひとつの施設を直接訪れて行くことで、医療を必要とする人たちがいないかどうか確認をしていきました。幸い道路は無事であり、水道・電気・ガスも無事なところが多く、助けを必要としない施設がほとんどでした。

私たち広島市民病院DMATは最初の2日間は県北で、残りの2日間を阿蘇で活動することとなりました。県北とともに活動していた約30チームと一緒に阿蘇へ移動し県北と同様の活動を展開しました。

DMAT 1チームは4～6人の少人数であり、1チームだけで活動してもできることはほんのわずかです。今回は600を超えるチームが熊本に集まりました、人数にすれば3,000人を超えます。そのたくさんのチームで即席ですが現地で組織を作り上げることで多数の患者にも、広い地域にも対応ができるようになるのです。

最後になりましたが、みなさまのご協力のおかげで4日間の活動ができ、無事に帰って来ることができました。被災地の早期の復興をお祈り申し上げます。



基本理念

患者さんと協働して、心のこもった、安全で質の高い医療を行います。

～基本理念実現のための3つの柱～

1. チーム医療を推進し、信頼され満足される医療を行います。
2. 地域医療機関との連携のもとに、救急医療と高度で専門的な医療を行います。
3. 健全な病院経営を行うとともに、すぐれた医療人の育成に努めます。

患者さんの権利に関する宣言とお願い

広島市立広島市民病院は、信頼され満足される医療を提供するため、次のような患者さんの権利を尊重します。

1. あなたには、個人として尊重される権利があります。
2. あなたには、良質で適切な医療を平等に受ける権利があります。
3. あなたには、診療に関して十分な説明と情報提供を受ける権利があります。
4. あなたには、自分自身の治療などについて、自分の意見を述べ、自ら決定する権利があります。
5. あなたには、当院での医療に関するプライバシーを保護される権利があります。

これらの権利を守り、より良い医療を実現するには、患者さんと医療提供者とが力を合わせて取り組む必要があります。そのため、患者さんも積極的に医療に参加・協力する責任があることをご理解のうえ、ご協力くださるようお願いいたします。

外来診療のご案内

診療受付時間

午前8時30分～午前11時00分
※眼科／火・木曜日
午前10時00分まで
診療科によっては休診日がありますので事前にご確認ください。

休診日

土曜日・日曜日・祝祭日・8月6日
年末年始(12月29日～1月3日)

紹介状持参のお願い

初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費のほか医科5,400円、歯科3,240円(H28年8月から)のお支払いが必要となります。初診の際には、紹介状をお持ちください。